

「宝の島・創造とくしま」の実現に向けて

小原・島・樋泉・村松

1. 2050年の将来像

(1)2050年の日本の姿

- ・地方では少子高齢化のピークを過ぎている
- ・大都市の高齢化が激しい
- ・一部自治体が消滅している可能性

(2)2050年に目指す徳島像

- 世界のとくしま
- 自立循環型の経済
- いろんな人が集まって多様性を容認できる徳島

1. 2050年の将来像

<それぞれのイメージ像>

■世界のとくしまのイメージ

- ・特色があること
- ・世界から選ばれること
- ・日本の中の徳島ではなく、世界から見て徳島
- ・徳島が日本の玄関
- ・「カラー」「らしさ」が出てくると都会に流れていた人も徳島に留まる

■自立循環型の経済のイメージ

- ・大都市に頼らない自立した徳島
- ・徳島の中でお金が回っている
- ・35年後もまちが継続していて持続可能な形

■いろんな人が集まって多様性を容認できる徳島のイメージ

- ・多様性を容認すると物事のすべてがうまくいく。
- ・都会にいと、似たような人と集まる。田舎ではいろんな所属の人が集まる、ご近所の方とか、Mixされる
- ・自分が自分であって、お互いがお互いであること
- ・事がうまくいくためにはどうすれば良いか、みんなで助け合い、考える、風通しの良さ

2. 2050年の徳島像実現のために10年後に目指すべき徳島の姿について

基本目標7「宝の島・創造とくしま」の分野から5つの重点戦略ごとに取り組むべき内容につき検討

1. 誰もが幸福とくしまづくり ⇒ ■多様性を容認できる徳島

○実現のために、多様な文化や価値観を認めあう必要

- ・いいもの、新しいものを取り入れる、縛られない
- ・お互いを容認しあうこと、風通しがよくオープン、境目がない
- ・何かの目的を達成するためにはいろいろな方向性があり、100通りの仕方がある

具体的な取り組みとしては、互いを認め合うための、勉強(座学)だけでなく実体験が必要。何かを一緒に創りあげる体験。

ex)・アーティストインレジデンスのような外国の方と触れ合う機会

- ・牟岐の英語村
- ・アニメ、文化、スポーツを通じた他文化交流
- ・ホームステイ

2. 2050年の徳島像実現のために10年後に目指すべき徳島の姿について

基本目標7「宝の島・創造とくしま」の分野から5つの重点戦略ごとに取り組むべき内容につき検討

2 協働立県とくしまづくり ⇒ ■自立循環型の経済

○実現のために、官民がうまく協働する必要。地域性を活かして、新たな協働モデルとなるような先進的取り組み、地域活性化に繋がるものであれば、既存の行政分野に属さない、独自の取り組みについても柔軟に協働できる仕組みづくり。

- ・民に委託することにより官ではできないことができる。枠を超えて柔軟に対応できる
- ・方向性の取捨選択ができる、まちをデザインできる
- ・求める方向性のマッチングができる

必要な取り組みは、積極的に、行政から想いのあるNPOなどに委託するなどし、うまく協働する。NPOの主体性を信頼してまかせる中で、官の力が必要な部分においては官が最大限に協力。また、官も民間のビジネスモデルをより柔軟に取り入れていく。

ex) 神山町とグリーンバレーのような関係

2. 2050年の徳島像実現のために10年後に目指すべき徳島の姿について

基本目標7「宝の島・創造とくしま」の分野から5つの重点戦略ごとに取り組むべき内容につき検討

3 活みなぎるとくしまづくり ⇒ ■世界のとくしま ■自立循環型の経済

○実現のために、二拠点居住の推進、サテライトワークの推進

移住の前にひとつ手前の循環する仕組みが必要(いきなり移住はハードルが高い)

二拠点居住

- ・「都会都会」だけでなく「地方地方」でもよい。
- ・船に乗る、飛行機に乗るというアトラクションがあることで行った感。
- ・(時間の)終わりがあることによるメリット。
- ・どちらかではなく、どちらも。循環。

サテライトワーク

- ・環境を変えることで自由な発想が出来る。
- ・工場的な働き方から企画計へ。サテライトの実証。
- ・IT×農業。
- ・人の循環、人が人を呼ぶ。おもしろい人、イノベーションを起こす人がいれば、それに続く人が出てくる。
- ・徳島からイノベーション。

2. 2050年の徳島像実現のために10年後に目指すべき徳島の姿について

基本目標7「宝の島・創造とくしま」の分野から5つの重点戦略ごとに取り組むべき内容につき検討

4 笑顔あふれるとくしま ⇒■世界のとくしま

○実現のために、新しいかたちの徳島ならではのものを。地域ならではのものを守り、活かし、惹きつける

統一的な、現代的な都市計画

これから35年も経てば(2050年頃)、今の日本の建物は大抵建て替わってしまう。ところが、世界の魅力的な都市は、数世紀前の町の姿、面影を今も感じる。35年後の徳島は、その後数世紀に渡って魅力を受け継ぎ続けられる形に。

ex) 森の中に溶け込んだ家。景観に溶け込んだ家。インフラ機能と景観の両立。

数世紀先にも愛される姿

- ・海外からの視点・ツボを押さえる(祖谷の秘境、さるが温泉に入る姿。おばあちゃんが畑を耕す姿。
- ・四季の景観を守りつつ、人間が生きていく上での快適さも実現
- ・昔からの人間の暮らし。初めてやってきたのに「帰ってきた」という感じ。
- ・新しい文化も上手く取り入れながら、故きを温ねる(アニメ文化の活用など)

2. 2050年の徳島像実現のために10年後に目指すべき徳島の姿について

基本目標7「宝の島・創造とくしま」の分野から5つの重点戦略ごとに取り組むべき内容につき検討

5 希望に向かうとくしま

○県民目線・県民参加による「県民主役の県政」の推進

- ・今回の若者クリエイティブ部会のように、若い世代と行政がコミュニケーションを図るツールとして、ソーシャルメディアは是非活用して欲しい。
- ・ただ、オープンな場で自分の意見を書き込んだり、発言するのはハードルが高い。
- ・いかに気軽に発言してもらうかが課題。
- ・ハードルを下げる。発言には勇気がいるのでうまくツールを活用。
- ex) フェイスブックの「いいね！」を使ったウェブ投票など、気軽に参加できる仕組みづくりが必要。
- ・また、自分たちの声が施策に反映される(た)という実感が湧くことで、より県政にも興味を持ってもらえる。
- ・民間のイベント開催などを行政が積極的にサポートする